

ESD ユネスコ世界会議報告

ユネスコから高い評価を受け、連携を深めるアートマイル

ジャパンアートマイル (JAM)

2014年度は「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」(アートマイル)がユネスコから ESD(持続可能な開発のための教育)として評価され、ユネスコとの連携が深まる一年でした。5月にユネスコ本部を訪問した際に、アートマイルはユネスコが奨励する ESD 学習プログラムと位置づけられ、11月にユネスコと日本政府の主催により名古屋市と岡山市で開催された「持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議」(ESD ユネスコ世界会議)では、発表・パネルディスカッション・展示を行いました。

1 ユネスコ本部訪問

5月15日に JAM のスタッフ3名がユネスコ本部を訪問し、教育局のライト ESD 課長と面会しました。世界の子もたちがリアルに繋がって共通のテーマで協働学習を行い、学習の成果として壁画を共同制作するアートマイルは、ESD をグローバルに展開する手法として高く評価され、ユネスコが奨励する ESD 学習プログラムと位置付けられました。



<参加校と協働学習テーマ>

○名古屋市立愛知小学校と A. H. Lacson 小学校(フィリピン):「生きていく上で大切なものは何か」

○札幌市立札幌大通高校と Plearnpasa 語学学校(タイ):「思い込みがどのように私たちの固定観念や差別意識を生むのか」「子どもの教育と職業の均等」

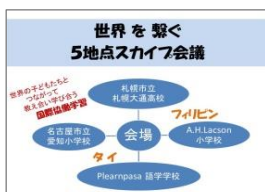
「相手の国に対して協働学習をする前と今とで印象がどう変わったか」という質問に、愛知小学校の生徒は「フィリピンは発展途上国で貧しいのだろうと気の毒に感じていたけれど、フィリピンについてたくさん学んで印象が変わった。スカイプで『どう生きるか』について話し合っている時に、フィリピンの人々が家族を愛する素適な人たちだと分かって今では大切な友達になった。」と答え、「テーマについての協働学習では何を学んだか」という質問に対して札幌大通高校の生徒は「日本でもタイでも少数派の人々がいて差別の問題が起きているが、私たちは固定観念を捨て、すべての人が誇りを持って自分のルーツについて語れる世界に変えていかなければいけないと思った。」と答えていました。

2 ESD ユネスコ世界会議 in 岡山

(1) 世界と繋いだ5地点同時接続スカイプ会議

JAM は岡山で開催された「ユネスコ世界会議:ステークホルダーの主たる会合」の最終日11月8日に、「ユネスコスクール世界大会」の全体会のステージで、日本のユネスコスクール2校とその海外パートナー校2校(タイとフィリピンの学校)と会場の5地点を同時に繋いでスカイプ会議を行いました。

日本・タイ・フィリピンの児童生徒は、9月からアートマイル国際協働学習で行ってきたテーマ学習の成果を発表しました。



スカイプ会議の発表を聞いていたユネスコ本部の ASPnet トップの Ms. Livia Saldari から、「岡山での多地点接続のスカイプ会議は ICT を協働学習に活用する最高の事例であった。アートマイルの

国際協働学習は教師にとっても生徒にとっても創造的で豊かな学習になっている。発表を見た全ての ASPnet のナショナルコーディネーターと教師は、異文化理解と双方向の学び合いが、国を越えて持続可能な社会を創るためにいかに重要であるかを十分理解したと思う。ASPnet スクールにアートマイルを導入したい。」とコメントが寄せられました。

(2) 展示



岡山県立岡山一宮高等学校とアメリカの Bergen County Technical H.S. 作品を展示しました。

3 ESD ユネスコ世界会議 in 名古屋

(1) パネルディスカッション

11月10日～12日に名古屋で「ユネスコ世界会議：閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合」が開催されました。

JAM は11月10日に閣僚級会合が行われた名古屋国際会議場で「アートマイル国際協働学習で持続可能な未来を拓く次世代を育てる」をテーマにパネルディスカッションを行いました。



鈴木寛氏(文部科学大臣補佐官)、福本謹一氏(兵庫教育大学副学長)、稲垣忠氏(東北学院大学准教授)、吉田正行氏(多摩市立南鶴牧小学校校長)、塩飽隆子(ジャパンアートマイル代表)をパネリストとして、日本の教育を考える立場、教員養成の立場、現場の立場、学校支援の立場から未来の教育・次世代の育成について議論しました。

鈴木氏は「100 の論文、1000 の論文よりも一つのアートマイルの実践が全ての要素を含んでいる。これからの時代を創っていくのはそれまでにない新たなものを創り上げていく Creative Collaborative Artworker である。アートマイルにはそうした人を育てる力がある。」とアートマイルを絶賛されました。

(2) 作品展示

■閣僚級会合エリアでの展示



世界会議中、150 カ国・地域から 1000 人以上の閣僚級を含む出席者が毎日通る通路で、アメリカ・インドネシア・ウガンダ・オーストラリア・ザンビア・タイ・パキスタン・フィジー・フランス・メキシコの児童生徒と日本の児童生徒が共同制作した11枚の壁画を展示しました。

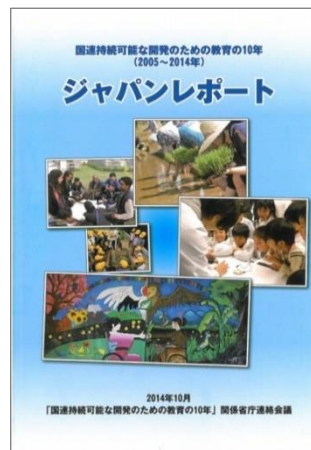
ユネスコ本部のライヒト ESD 課長は、「国際協働学習の成果が絵に現れている。ESD のすばらしい成果だ。」とコメントされました。

■ウエルカムレセプション会場での展示



東京都立田柄高等学校とカナダの Lincoln M.Alexander S. S. の作品を展示しました。

(3) ジャパンレポート



JAM の活動は、日本の ESD の取組が世界の国々の参考となるようにまとめられた「ジャパンレポート」(日本版・英語版)に日本の優良事例として掲載されました。

「ジャパンレポート」は世界会議で配布されました。

4 ユネスコとの今後の連携

ユネスコ本部の Ms. Saldari の提案により、2015年度よりユネスコのパイロット事業として "IIME: an experimental phase with UNESCO ASPnet Schools" がスタートすることとなりました。アジア太平洋地域のユネスコスクールと日本のユネスコスクールがアートマイルに取り組みます。